

令和5年度 第3回 石岡市総合計画審議会 会議録

1 会議の名称

令和5年度 第3回 石岡市総合計画審議会

2 開催日時

令和5年10月26日(木) 午前9時30分から正午

3 開催場所

石岡市役所本庁舎 2階 201・202 会議室

4 出席者氏名

別紙「令和5年度 第3回 石岡市総合計画審議会出席者」のとおり

5 議題

(1) 石岡市総合計画第2期基本計画の策定について

- ① 政策目標3「安全・安心」、政策目標4「都市基盤・環境」の修正について(資料1・2)
- ② 政策目標5「健康・福祉」について(資料3)
- ③ 政策目標4「子育て・教育・学び」について(資料4)

6 会議内容

【次第1】 開会

事務局

これより令和5年度第3回石岡市総合計画審議会を開会いたします。

本日の会議の出席者は現在16名ですが、関口委員が公務のため若干遅れるとのご連絡をいただいています。最終的な人数につきましては事務局の方で調整をさせていただきます。関口委員が出席されますと17名でございます。

審議会条例第6条第2項に規定する定足数を満たしていますので、この会議は成立していることをご報告申し上げます。また石岡市総合計画審議会傍聴要綱に基づきまして公開としています。

それでは次第に沿って進めさせていただきます。はじめに馬渡会長よりご挨拶を申し上げます。

【次第2】 会長あいさつ

会長

本日は、政策目標4「健康・福祉」及び政策目標5「子育て・教育・学び」についての議論が中心となるのでよろしく願います。

事務局 それでは議事に入ります。これ以降の議事進行につきましては会長をお願いします。

【次第3】 議事（1）石岡市総合計画第2期基本計画の策定について

会長 ① 政策目標3「安全・安心」、政策目標4「都市基盤・環境」の修正について
次第に従い進める。まずは、政策目標3「安全・安心」及び政策目標4「都市基盤・環境」について、前回の会議を踏まえての修正。事務局の説明をお願いします。

事務局 それでは、政策目標3「安全・安心」と政策目標4「都市基盤・環境」について、前回の総合計画審議会でのご意見等を踏まえた修正内容をご提示する。なお、修正した内容については、資料中に黄色のマーカーで記載。

初めに、資料1「安全・安心」の2ページ。基本施策「消防・救急体制の充実」について、救急車両等の適正利用に関する取組が必要であるとのご意見をいただいた。現状・これまでの取組として、電話相談に関する周知、HP上での呼びかけ等を含めて啓発活動に努めていることを記載した。あわせて、3ページでは、講習会や広報を行い、救急事案発生の未然防止に努めていることを追記している。

9ページ。基本施策「防災危機管理の充実」に関して、災害ボランティアについてのご意見をいただいた。課題で、社会福祉協議会で実施している災害ボランティア活動との連携などにより、被災した方々が早期に生活再建できるためのボランティア活動の支援について位置づけている。10ページの主要な取組に記載している業務継続計画の策定にあたり、見直しの必要性についてのご意見を踏まえて修正した。既存の業務継続計画については、必要に応じた見直しを行っているところだが、主要な取組として改めて記載し、今後も適切な対応を継続する。

資料2「都市基盤・環境」をご覧いただきたい。3ページ。基本施策「駅周辺の整備」の主要な取組にある石岡駅東口の整備事業については、防災機能を備えた都市公園の整備を進めるとして記載を改めた。

4ページ「交通ネットワークの整備」について、現状これまでの取組で、TX延伸推進に関する取組を追記。引き続き、石岡市を經由して茨城空港方面への延伸を目指し、推進活動を実施する。なお、前回の審議会では、高齢者等の免許返納に対する取組についてもご意見をいただいた。こちらについては、公共交通機関の充実を図ることで、支援体制を強化してまいり。そのほか、乗合いタクシーの利便性向上や、周知等についても取組を継続する。なお、本年度行っている地域公共交通計画の策定に合わせて、必要な取組や指標については再度整理を進める。

続きまして、8ページ「循環型社会の構築」の課題について、ご意見を踏まえ改めて整理し、ごみの減量化、再資源化を図り、循環型社会の構築に向けた取組をさらに強化する必要があるとしている。

14 ページの「環境保全の推進」では、水質汚濁に関する課題について、整理をして、水質環境の保全に努めてまいる。

以上が、各ご意見を踏まえた修正内容である。

会長 　　ただいま事務局で、まとめた資料1及び資料2について、ご意見ご質問をお願いします。

委員 　　お願いになるが、前回の討議を踏まえた修正を提示していただいたが、議事録がまだできていないとのこと。前回の審議結果がどのように反映されているか、よく見えなかった。すべてを記憶しているわけではない。次回には資料とともに議事録も配布していただきたい。

会長 　　議事録は今回間に合わなかったということで、次回よろしく願います。

委員 　　目的を明確にしたらよい。審議をして意見が出て、それをどう反映したのか、あるいは理由があって反映できないのか。はっきり繋がっていないと、審議会をやった意味がない。民間の話をして恐縮だが、民間では議事録はその日か次の日に発行される。記憶が鮮明なうちに、会議で付議されたことが共有され、どのように、次の施策展開に、反映されるのか認識することが目的。忙しいとは思いますが、早期に議事録を作成していただいて、次の会議には間に合うようにしていただきたい。

会長 　　承った。

委員 　　業務継続計画は何かやっているか。所管はどこか。

事務局 　　防災危機管理課。

委員 　　いつやって、見直した部分をどうするのか見えない。訓練した議事録はあるか。事務局も使っているか。

事務局 　　訓練の議事録というのは、確認していないが、防災訓練等を行っている。

委員 　　確認していないということでは、担当者ベースになっている。やることがしっかりやられているか、また、訓練したことを議事録とすることで課題が見つかり、課題をどうするかということまで含めて、見られているのか、非常に疑問に思った。BCPは危機管理の上で非常に重要なこと。議事録を含めて、事務局としては精査して欲しい。課題が進められるかということまで含めて、PDCAが回っていることになる。

石岡市の BCP(地震編)に基づく訓練はやられているか。

事務局 防災訓練は実施している。実績や内容については、事務事業評価を毎年度行っており、ホームページに公開している。議事録という形では、私どもでは確認していないという趣旨でお答えした。

委員 いつ、どんなことをやったかも含め管理していただきたい。

会長 これについては、事務局の方でまた取りまとめていただきたい。

【次第3】 議事（1）石岡市総合計画第2期基本計画の策定について

① 政策目標5「健康・福祉」について

会長 次の議題に移る。2番目の議題、政策目標5「健康・福祉」について、事務局の説明をお願いする。

事務局 資料3「健康・福祉」について、今回見直しを行った内容を中心にご説明する。

2ページ「感染症対策の推進」。成果指標に関しては、アフターコロナを踏まえて、マスク着用に関する記載を修正。そのほか、現状・これまでの取組、課題、次のページの主要な取組など、アフターコロナを踏まえつつも、ワクチン接種や、インフルエンザをはじめとする他の感染症への対策など、今後も引き続き対応が必要な内容を踏まえて記載内容を修正。

4ページ「地域医療の充実」。前回の計画策定時の整理状況から、令和5年度に至るまでの取組を踏まえて修正をしている。大きな点としては、現状・これまでの取組で、産科医療施設開設基金を創設したこと、小児科救急診療を開設したこと、石岡市医師会病院が新たな病院として開設したこと、令和4年4月に見直した石岡地域医療計画に関すること等を記載した。

8ページ「地域福祉の充実」。9ページに課題として記載していた、社会福祉協議会での地域福祉活動計画の策定未了の件に関して、課題を解決したことから、8ページの現状・これまでの取組として改めて整理した。10ページの参考指標に関しては、目標年度の延長を行っている。

12ページ「健康づくりの推進」。現状これまでの取組として、特定健康診査については、コロナ禍で下がった受診率の回復に努めていることを整理したことと、こころの健康に関する啓発活動や相談体制の充実を図っていることを記載。あわせて13ページの課題では、複雑化するこころの健康に関して、関係各課や施策間連携を図る必要があることを整理。主要な取組では、がん検診の実施に当たり、SNS等を活用した情報発信により受診率向上に取り組んでいること、予防接種事業として新たに带状疱疹ワクチンを追加したことを記載。14ページの精神保健事業では、こころの健康に関する取組について、課題等を踏まえた修正を行った。参考指標においては、今年度策定を行って

る、第3期データヘルス計画の策定状況を踏まえて、目標値を修正している。

16 ページ「高齢者福祉・介護予防の充実」。現状これまでの取組では、コロナ禍を踏まえていた記載を修正し、改めて、介護予防活動の支援、加齢によるリスクの軽減について記載。こちらの施策に関しても、関連する計画として、ふれあい長寿プラン第9期の策定を行っている。総合計画の内容を踏まえて、個別計画との調整を図りながら、今後、必要に応じて参考指標等の再整理を行う。

20 ページ「障がい者福祉の充実」。こちらの施策に関しても、本年度は新たな計画策定を行っている。総合計画の内容を踏まえて、引き続き個別計画との調整を行い、適宜修正が必要である場合は、改めてご提示する。

24 ページ「生活困窮者等の自立支援」。施策の内容に大きな変更はない。生活保護の適正な運用や、生活困窮者への支援などを含めて、引き続き取組を推進する。

26 ページ「持続可能な社会保障制度の運営」。これまでと同様、関連する計画の見直しがありますが、全体の方向性として大きな変更はない。引き続き、持続可能な制度運営に向けて取り組みを推進する。

資料3については以上となる。

会長 　　ただいまの資料3「健康・福祉」について、ご意見ご質問があればお願いします。

委員 　　産科医の目標について非常に疑問に思った。皆さんは思わないか。令和13年度までに1施設を目標としており、こんなに長くかかるのかと。どんな取り組みをやるのか。スケジュールはどうなっているか。スケジュールを見せていただきたい。目標管理をしているときは、必ずスケジュール示していただきたい。いつ誰がどこまで何をするのか、出していきたい。

事務局 　　具体的なスケジュールはお示しできない状況。担当部局の方で様々な方策の検討や協議、調査をしているところ。ご存じの通り、かなり難しい状況となっていることから、総合計画の期間で1施設なんとか開設していきたいということで目標設定している。

委員 　　回答になっていない。スケジュール管理はどうなっているかと聞いている。どのような取組を行い令和13年までにやっつけようとしているのか。今年はどんなことをやるのか。マネジメントとして、それが普通である。スケジュールに関して、市はなかなか出せない。本当に目標管理に入れなければならないのかということも感じる。ここに入れる以前の問題で、取り組まないといけない課題である。皆さん議論した方がよいのではと感じた。

会長 　　石岡市に限らずの話であるが、産科医の確保は非常に難しい。ある自治体では、大学病院の卒業生などを紹介していただいた事例もあるが、ご本人の希望もあり、なかなか確約してもらえない。計画を立てるのが非常に難しい話は、耳にしているところ。地域

医療の根本的な問題であり、なり手不足というか、人はいるかもしれないが、産科医自身が来ようと思わないという側面もある。

事務局

石岡市地域医療計画では、産科開設の補助金の導入や、産科医療機関に対して、分娩した際の手当補助金の導入が記載されている。今年度は、産科医療施設を開設するための支援として、1億円の基金を積んでいる。それらを踏まえながら、今後取り組みを進めていく。

24時間、安心安全に分娩できる施設を確保するには、医師が3人必要である話を聞いている。たださえ医師の確保が難しい中で、3人必要。それを支援するための看護師、機材など様々なものが必要になっており、なかなかスケジュールを立てて進めていくのは難しい状況。

委員

理解した。計画するのは難しいと思う。一方で総合計画に書かれていると、すべて目標管理ということになる。なんでも入れればいいものでもない。無理してこういう目標管理されているような部分もあるのではないかと。取組としては非常に難しいと思う。卒業生を連れてこようとしているのではないかと考えた。目標管理が難しい。考えていただきたい。否定しているわけではなく、重要課題として進めていただきたい。

会長

他に意見はあるか。

委員

産科の設置だが、私も30歳代ということでこれから結婚して子供を産むことを考えると、やはり地元で子供を産みたい。その気持ちは皆さんあると思う。会長や事務局からもあったが、非常に難しい問題で、議会の中でも、非常に重要な問題と捉え、議論している。

7月に熊本県の福田病院を視察してきた。そこは産科で非常に有名な個人経営の病院であり、院長先生と話をさせていただいた。令和4年度は熊本県で生まれた赤ちゃん4人に1人が福田病院で生まれているとのこと。石岡市の現状などを伝えて意見交換した中で、石岡市の状況で産科を開業したいと思う医師は、多分日本中を探しても誰もいないと言われている。

そのような状況を踏まえて、市としても構想を練っている。今年度から基金を積み立て、近隣自治体との共同での参加の設置なども考えている状況なので、目標設定の中にそういった文言を強調してもいいのかなと思う。市内に開設するという文言になっているため、広い意味で周辺に産科を誘致など、文言を変えてもよいのではないかと。厳しい問題であり、長期的に向き合っていく必要がある。

会長

ご意見については事務局で取りまとめをお願いする。

委員

ただいまの意見の中で、石岡市の状況で産科医が来ることは難しいとおっしゃったが、石岡市の状況とはどのようなものを示すか。また、かすみがうら市や小美玉市には産科はないのか。

委員

かすみがうら市にも小美玉市にも産科はない。私の友人が、阿見医大で産んだ事例や、ひたちなか病院に通っている方もいる。福田病院の院長の意見では、現在の石岡市の出生率では、産科としてくる医者さんはいないということである。それであれば、近隣の自治体と広域で連携することが大事であるという視点。また、全国的に人口減少が進む中、選ばれる産科を目指す必要がある。出生率上げることは100年200年で大きな目標であり、選ばれる病院を目指すためには、市単独ではなく、複数の市町村が集まって連携して経営、協議するというのが大事。

委員

非常に貴重な情報と考える。令和13年までにできるかどうか、具体的なスケジュールがない中で、今の意見のような取組をすること自体が産科を設置するための具体的なステップではないか。福田病院の院長の話を聞くと、出産数が少ないということであり、泥臭い言い方をすると、産科医としてビジネスモデル成り立たないと聞こえる。出産数を確保するために連携を支援していくことが実際に進めるような案になるのではないかと。もしくは、乱暴な言い方だが、石岡市はこれだけお金払うよ、というやり方を産科医のビジネスモデルにするのも一つの手段かと思う。それは基金1億円では当然足りないが、プランの一つになるかどうかともご検討いただきたい。

会長

委員の皆様方から他はよろしいか。ただいまの意見等々について、事務局で、よろしく願います。

委員

石岡市の健康寿命が、非常にいい数字である。平均寿命は、石岡市は男性80歳で、女性86.3歳という記載が、市の資料にあったような気がするが、ここの健康寿命は、間違いのない数値か。通常、7歳から13歳ほど、健康寿命と平均寿命の差があるが、石岡市は非常に差が小さい。これは石岡市のPRポイントにならないか。

事務局

健康に関する計画で健康応援プランというものがある。こちらの数字の方は正しい数字である。茨城県や、全国の数値と比較しても、茨城県は全国よりもよく、石岡市は茨城県よりも良い状況。

委員

健康で長生きしたいことは皆の望みであるので、これが事実であり、その理由が石岡独特のものであれば、石岡が選ばれると感じたが、皆さんあまり感じていないか。

会長

趣旨はそのとおり。フレイルの問題もあるが、石岡市の健康寿命が長いということであれば、これ大きなPRポイントになり得るかと思う。

- 事務局 15 ページに、健康寿命の算出方法を記載している。国と都道府県で出している数字と、石岡市で出している数字の根拠になる計算式の定義が異なっている。自治体間でなかなか同じ条件で比較できないこともあるが、内容を精査して、石岡が特に優れているのであればPRしていきたい。
- 委員 14 ページに、特定健康診断の受診率と特定保健指導実施率という参考指標がある。今まで60%だったものを下方修正しているが、私が調べた範囲では、国が目標にしているのが60%と認識をしている。なぜ下方修正されたのが、その理由を教えていただきたい。ちなみに、両方50%以上を実施、実現している自治体が全部で61ヶ所ある。ただし、最大人口でも2万2000人。石岡市のような約8万人の市の中で、60%を超えているところはないので、非常に高いターゲットだと考える。私個人的には、少なくとも国の目標に合わせるべきではないか。
- 事務局 現在策定を行っている個別計画の中での策定過程途中の数字となっている。根拠については、明確にしていく必要があるため、担当課ともさらに調整を進めて、明確なものになるようにしたい。
- 会長 次回の会議の際に状況をご説明していただく。
- 委員 12 ページ(健康づくりの推進)の成果指標と26 ページ(持続可能な社会保障制度の運営)の成果指標は同じ健康寿命となっている。26 ページに関しては、社会保障制度の運営によって健康寿命の延伸に繋がることは間違いないとは考える。石岡独自の事業などがあるのではないかと思った。
- 副会長 24 ページの取組では、生活困窮世帯の子どもの学習支援ということが記載されている。25 ページの参考指標では、生活保護世帯の子どもの自立支援があり、高校進学率が100%となっている。学習支援により勉強して、進学していると思った。学習支援というのは、具体的にどのような支援しているのか伺いたい。
- 委員 7 年ほど前からまちづくり市民会議に委託されており、計画的にやっている。今現在44 名ほどの生徒が、勉強に来ており、週2回実施。成績の向上が課題ではあるが、居場所としては、非常によい環境である。欠席者もほとんどいない。受験に向けて、成績上げたいと考えている。幼少期に非認知能力を伸ばせていない子どもが多い。ほとんど一対一で先生と学習することになるので45 名ぐらいが限度である。
- 副会長 生活困窮世帯のお子さん、例えば、幼少期の生活環境というのは、進学の時期、結婚に関して、その後の、ダブルケアという頃の年齢まで、影響していると感じる。生活的に苦しい家庭は、子どもへの教育にも大きく影響する。これは、社会問題であり、一言では

解決はできないが、そういった社会状況が、市の経済状態を圧迫する。引きこもりなどの理由から、50歳代の子を80歳代の親が面倒見ているようなケースもある。ダブルケアを市の方で支援するという事は、今後ますます大変な状況になってくる。そのあたりを、どのように捉えているか、事務局からもコメントをいただきたい。

事務局 生活困窮者世帯の学習支援に関連して、まず生活保護になる前の段階で、生活保護にならないための支援を行っていく力を入れていく。引きこもりになるという部分も課題と考えている。資料の8ページにも、記載しているが、地域福祉計画の中でも、これらの問題は重要と捉え取り組みを行っている。

委員 18ページ(高齢者福祉・介護予防の充実)の各指標に関しては、今後検討すると記載があるが、一つのヒントになるものとして。認知症サポーター数の目標設定が5,200人となっているが、全国的には人口比率で12%程いる。石岡市の人口で言うと8,000人ぐらいが全国平均のレベルということを確認いただいて、目標値を検討していただきたい。

委員 12ページ、健康づくりの推進で、あるべき将来の姿に「保健センターを軸として」ということが書かれている。現在、拠点のあり方について議論されていると思うが、現時点の検討段階でもよいので計画に反映すべきと考える。

会長 ただいまの件に関しまして、事務局でよろしく願います。

【次第3】 議事 (1) 石岡市総合計画第2期基本計画の策定について

② 政策目標6「子育て・教育・学び」について

会長 続いて政策目標6「子育て・教育・学び」の議題に移る。事務局で説明をお願いします。

事務局 それでは、資料4「子育て・教育・学び」をご覧ください。同様に、今回見直しを行った部分を中心にご説明する。

2ページ「結婚・出産支援の充実」。初めに成果指標として、未婚率を追加している。人口減少対策として、結婚出産支援を充実することで、未婚率の減少を目標としている。なお、目標値については、国勢調査の結果に基づくものであり、全国平均を目指すこととしている。現状これまでの取組では、未婚率について、令和2年度国勢調査の結果に基づく内容に修正。実際には平成27年時点と同様に、未婚率は、国県よりも高い状況で、引き続き増加傾向にある。3ページの課題では、人口減少対策の一つとして、若い世代がライフデザインを描くことができるような支援が必要であることを記載。主要な取組としては、不妊治療の支援に関して、現状を踏まえて整理し、不妊治療とあわせ

て、不育症に悩む方への経済的負担の軽減を図ることを記載。4ページでは、妊娠・出産期に対する支援として、新たな取組として、石岡出産子育てサポート事業を追記した。参考指標に関しては、結婚支援関連の事業の利用者数を設けて、引き続き取組を推進してまいる。こちらの指標に関して基準値が令和2年度時点となっているが、正しくは令和4年度。訂正させていただく。

6ページ「乳幼児期支援の充実」。7ページの主要な取組において、乳幼児期における家庭への経済的支援の記載を詳細にするとともに、参考指標では、家庭への支援として、親力アップ講座を追加。

10ページ「子育て家庭支援の充実」。11ページの主要な取組に記載がある、家庭教育力の向上と育児参加の促進に関連して、12ページの参考指標の修正。家庭教育力の向上を目指して、指標に関しては、子育て学習講座の実施校と改めた。

14ページ「個別の事情を踏まえた子ども・家庭支援の充実」。不登校支援や特別支援などに関して、さらに取組を強化していくことを踏まえ、16ページの参考指標では、教育支援センターの設置を目標とした。

18ページ「創意ある学校教育の推進」。現時点では、大きな変更はしていないが、教育大綱・教育推進計画の策定状況を踏まえ、総合計画として位置付けていく必要がある。今後改めて方向性の共有、取組や課題、指標等の整理を行い、修正等がある場合は、改めてご提示する。このほかの基本施策に関しても同様に、教育大綱・教育推進計画の策定状況を踏まえて必要な修正を進めてまいる。

22ページ「地域と連携した教育の推進」。23ページの課題では、家庭環境に左右されることなく、放課後子ども教室等において、様々な体験活動ができる環境づくりが必要であることを整理。また、子ども会加入者の減少を踏まえて、加入促進や活動支援の取組が必要であると修正している。24ページの参考指標として、主要な取組を踏まえた修正を行った。放課後子ども教室の参加者数については、生徒数の減少が続いている中ではあるが、取組の推進や、周知等をさらに行うことで、目標値を上方修正している。コミュニティスクールの設置については、設置にむけた取組を進めるとともに、学校支援ボランティアの参加者数を指標として追加。あわせて、25ページのコラムでも記載を追加。

26ページ「学校教育環境の整備・充実」。現状これまでの取組では、学校の統合再編の現状を踏まえて記載を修正。課題に記載したが、学習環境の整備として、特別教室へのネットワーク設備の設置が必要。

28ページ「生涯学習の推進」。アフターコロナを踏まえた記載に修正するとともに、29ページの主要な取組では、図書館事業としての取組を再整理。

32ページ「スポーツの振興」。同様にアフターコロナを踏まえた記載に改めているが、全体としての大きな方向性の変化はない。引き続き、親しみやすいスポーツ環境づくりに取り組む。

以上が資料4「子育て・教育・学び」に関する修正内容となる。

会長 政策目標6「子育て・教育・学び」に関してご意見等あるか。

委員 先ほど意見であった引きこもりなどにも繋がってくるが、子育て家庭支援の充実で、母親同士の交流の充実やネットワーク化の体制整備をしてもらいたい。不登校の支援をしている中で、不登校の保護者の傾向として、ママ友が少ない現状がある。周囲に相談できる人が少なく、自分1人で困ってしまい、相談できずに重症化した段階で、学校や教育委員会に相談をする状況が起きている。やはり母親のコミュニケーション能力の向上や、その機会を増やし、お互いの子どもの状況を共有しあうようなネットワークを構築することが、不登校や、困窮世帯の子どもたちへの対策になるのではないか。

会長 子育ての「子」が孤独の「孤」にならないような支援という意見。

委員 結婚出産の支援の課題として、若い世代に結婚や出産を意識したライフデザインを描くことができる支援が必要とある。また、未婚率の指標は、結婚したいのにできないのか、したくないのかによってだいぶ違ってくる。多様化された時代に、結婚はすべてではないと考える方も多い。この課題の書き方だと、結婚して出産しないといけないという感じがある。結婚したい人には、ライフデザインを描くための支援はよいと思うが、自分のライフデザインは結婚しないと決めた人には上からものを言っている感じがする。出会いの場など、いろいろな面で、支援の方法が大事ではないかと考える。好印象を持つようなライフデザインは、どうやったらつくれるのか。とても難しいので考慮していただきたい。

委員 全体的に課題の部分に関して、「～が必要です」という文章が多い。担当課によっては、「～に対して～が必要です」という説明をしている文章もあるが、ただ、「～が必要です」と記載している箇所もある。もう一言述べるなど、整理が必要である。

2ページに、合計特殊出生率の表がある。このような見せ方は非常に大事であり、必要だと感じる。例えば、国の指標を使って、それが県の指標となり、それを取り入れた市の方で間違いなく指標にしている重要なものがたくさんあり、担当課で複数ある目標としていくことを、よく整理した表などがあってもよいと考える。全国や県と比較して、下回っているものが多くても、それは目標を持って取り組んでいくということで、よいのではないか。

石岡市の子育て施策は他市にも負けてないと感じる。ランドセルの支給や、子育て支援センターなど石岡市はすごく充実している。若い方から話を聞いており、随分たくさん意見としてあることを感じている。基本計画の冊子の中で、余白があるのであれば、重複しても、強調して記載した方がよいのではないか。

12 ページの家庭教育学級の実施については、義務化している市町村がある。現状が低いので、学校と協力していく方向でもよいのではないか。

22 ページの成果指標「地域の子供たちと関わりを持っている市民の割合」は表現が

曖昧。

24 ページからのコラムとして、コミュニティスクール、放課後こども教室、学校支援応援団などがあるが、22 ページの現状で記載がある「青少年を育てる石岡市民の会」は知らなかった。減少している現状が、どの程度なのか把握できていないが、これについてもコラムに追加してもよいのではないか。

コミュニティスクールに関して、石岡市は少ない。どの学校にもあるが、ただ、石岡市はすべての学校ではないようである。

事務局

コミュニティスクールについて、法律上努力義務化されており、石岡市についても設置に向けて進めている。それを支えるのが学校支援応援団であり、地域と連携し、学校を中心としたコミュニティを形成していく中で、各取組を応援するボランティアの方々を集めようという進めている。コミュニティスクールは令和6年度に各校設置する予定だが、小学校の統合再編があるので、指標の目標値として具体的な数字は書けなかった。

このようなコミュニティスクールをはじめとする取組により、22 ページの成果指標「地域の子どもたちと関わりを持っている市民の割合」として、地域の方々が、その地域における子どもたちと関わりを持っているかどうかというのを検証する視点から設定している。

青少年を育てる石岡市民の会は、小学校単位で活動しており、花壇の整備や、小学生集めての歩く会など、PTAやこども会と連携しながら活動を行っている団体。コラムで記載させていただきたい。

委員

出会いの場を取り上げた方がよい。今、石岡地方結婚相談所では、現在毎月1回開催している。小美玉市の相談員と石岡市の相談員16名程いるが、思うように機能していない。結婚相談員自体は、イベントを開くなどの議論はしていない。石岡市でも合コンなどのイベントは少なからず開催しているようであるが、小美玉市で開催された夜空コン(そらこん)のように、大々的なイベントをやっていないと、未婚率は上がる一方である。違うやり方で、相談員会議でも話をさせていただき、未婚率を下げる手立てをしてもらいたい。

委員

10 ページ、子育て家庭支援の充実に関して。石岡市は緑豊かなところで、自然の中で子どもを育てたい方にはすごく良い条件だと感じている。一方で、共働き世帯や核家族化が進む中で、子ども送迎問題は、全国的になっており、石岡市に関してはやはり交通の面から弱い。送迎問題をもう少し重点的に考えられるとよいと考える。私の母も送迎の関係で仕事を変えたこともある。バス路線を増やすことはかなり難しいと思うので、乗り合いタクシーを使うなどするとよいか。

委員

創意ある学校教育の推進の課題に有機野菜の記載があるが、有機農産物としていただきたい。有機栽培のお米も今注目を浴びている。学校給食にもぜひ、有機米の利用を

お願いしたい。また、参考指標に学校給食における地場産物の活用があり、目標 78% になっている。できれば 100% の地場農産物の利用ということで食育を推進していきたいと思っている。

こども食堂を実施している団体があるが、こども食堂の記述が見受けられない。食育と合わせて充実させていくということが、重要ではないか。

会長 取りまとめの方、ぜひよろしく願います。

委員 6 ページから 7 ページにかけての保育関係。保育関係予算は民間の運営費補助で年間 10 億円ぐらい使っている。全体では 26 億円程。他の自治体と比べて、PR できるものか。もしできるのであれば、しっかり PR したほうがよい。認識が間違っている場合はご指摘いただきたい。

課題では、3 号認定が問題だと記載がある。3 号認定を受け入れ可能な施設には余裕がないのか。その点を踏まえた目標設定としてもっと充実させるなどが必要であると考える。

委員 27 ページの主要な取組で、教員の働き方改革のところ部活動の記載がある。部活動の地域移行を今後進めていくことについて、詳しく書かれる必要はあるか。学校統合再編事業のフォローとセットで、教育バスの方に関して、今後、様々な課題がある課と思うが、その点、記載する必要はあるか。以上2点。

事務局 部活動の地域移行については、現在検討を進めている状況。明確なスケジューリング等をしていない状況だが、総合計画では、方向性という形で記載できればと考える。スクールバスの方につきましては、担当課と調整して検討させていただく。

また、部活の地域移行について、今年度、吹奏楽部の地域移行の実証実験として、石岡市と東海村が県の採択を受けた。学校が休みの日に、生徒に集まっていただいて、プロの指導を受けるという形で実験的に進めている。成果効果や指導の質、先生たちの働き方の方は改善などを踏まえて、今後の検討をしていきたい。

委員 教職員の1か月あたりの時間外勤務が令和9年度で 35 時間という目標になっている。令和4年度に 34 時間になったのは、おそらくコロナの影響もあったと思うが、それにしても、令和9年度で 35 時間というのは、世の中の流れとして、あるいは先生たちのバランスとして、どうなのかと思う。

適正規模の学校で学ぶ児童生徒の割合について。文科省の資料では、適正な規模の学校というのは 12 学級から 30 学級までと書かれていた。1 学級の定員が何人かによって学級数は変化するものとする。教員の給与は県が負担しているので、石岡市独自でできるかわからないが、石岡市としては 1 学級の定員をどう考えるのかはポイントではないか。要するに、学級数しか規定されていないようなので、1 クラスの定員が減れ

ば、自動的に適正規模の学校になるような、からくりがある気がする。ちなみに文科省の報告書では、20名以下学級が最も教育成果が上がっているというレポートがあった。

事務局

石岡市小中学校統合再編計画がある。この中での適正規模の趣旨は、複式学級を解消するというところに大きく主眼が置かれている。今いくつかの学校で、複数の学級が同じ学級で学ぶということもあり、解消していく方向性で進めている。

委員

26ページの現状では、「令和6年4月の統合により4校で複式学級を解消しました」と記載がある。現在進行形のはずが過去形になっているので修正をしていただきたい。

複式学級を令和6年4月に解消するのであれば、適正規模の学校と複式学級の関連は令和6年度で完了して、令和9年度の目標は何に基づいて決めるのか、明確にする必要があるのではないかと。理解が間違っている場合はご指摘いただきたい。

事務局

26ページの現状については、第2期基本計画の完成に合わせて、過去形で記載したところ。学級数について、法律の中では、小学校については、適正規模が1クラス35名というのが定められている。もちろん、下限にいくまで、学級の人数が少なくなるほど、1人の先生が見る児童も少なくなる。統合再編を進めながら、適正規模で皆さんに教育を受けてもらえるような環境整備を進めていく。

会長

教員も、なり手不足で大変な状況にある。検討を進めてほしい。

委員

先ほど1クラス35名という話があったが、例えば1学年で38名いるとすると、35名が上限なので、二つにクラス分けて19名クラスができる。1学年35名だと、35名で1クラスになってしまう。それによって先生が配置される。1学年が30名なので、15名と15名で勝手にクラスを分けて、先生2名欲しいとしても、先生が来ない。独自に雇えるかということ、そこまでお金がない。35名を超えた場合にクラスを分けるが、35の倍数なので、例えば73名いると3クラスできる。そのような状況で、実態としては30名前後のクラスが多い。学年によっては25名ぐらいの学年もある。

事務局に申したい。各委員がわからない部分について質問していることが、スルーされており、とても不親切。今の説明も私がしなくても、事務局から仕組みを伝えてもらえれば済むこと。少し伝えればわかることが、流れているので、次から次と疑問が出てきてしまう。とりあえず答弁できるものは、どんどんしてもらいたい。担当課ではないので、わからないこともあると思うが、データなど踏まえて、現状を伝えてもらいたい。詳細は、本日は持ち合わせていないのであれば、それでよい。この場で出た疑問点については、きちんと説明していただきたい。

創意ある学校教育の推進の参考指標で、英語と算数と国語の好きな児童生徒の割合を70%にするとあるが、70%には何か意味があるのか。課題や主要な取組でも、学校図書室環境の充実やALTなど、国語と英語については触れているが、算数については

具体的な取組など触れられていない。算数や数学を好きだと思う子が少ないのはいつの時代もそうであると思うが、記載としては矛盾している。目標設定の正しさや、それを裏付ける取組事業を確認してもらいたい。また、先生が面白い授業をやらない限り変わらないとも考えるので、その辺りも触れないと意味がない。

事務局 質問への回答ができていない部分についてはお詫びする。以後注意する。先ほどの参考指標と取組については、改めて、担当と調整したい。

委員 2ページの男女の未婚率の成果指標については、石岡市の数値か、それとも全国的な数値か。

事務局 石岡市の数値。

委員 数値を出すのは決して悪いことではないが、この指標に関しては、非常にプレッシャーを感じる。全国的な数値であれば、全国的に未婚率が高いということになるが、石岡市の数値となると、結婚したくてもできない人にはプレッシャーに感じることもあるので表記を検討していただきたい。石岡市の未婚率を出す意味はあるのかとも私は思っている。全国的な数値で参考指標程度にしてもよいのではないか。検討していただきたい。

10 ページ、子育て家庭支援の充実について。石岡市の取組は素晴らしいものが多い。総合計画の中でも、すばらしい取組の紹介をしたほうがよい。おむつクーポン券など、非常に好評な事業があるので、大々的に取り上げてよいのではないか。総合計画でPRすることで他市町村にも公表できる。もちろん市民にも。

創意ある学校教育の推進で、学校給食における地場産物の活用率の話が先ほどあったが、私も全くその通りだと思う。もっと高い目標を掲げてよいのではないか。

有機野菜に関連して、JA やさとの有機部会は、今年度 JA グループの全国農業大賞で大賞受賞している。また、その後内閣総理大臣賞も受賞。石岡市にとって有機農産物の栽培は本当にPRできるもの。有機野菜の表現を変えて、全国的に素晴らしい内容であるとPRする文言を加えてもよいのではないか。学校給食での地場産物の活用率の向上にも繋がってくる。

事務局 2 ページ、結婚・出産支援の成果指標や課題で整理した部分については、若い世代が結婚出産を意識できるような支援をしていきたい。基本計画の策定にあたり、検討を進める中で、人口減少は大きな課題と考えている。その中で、出生率を上げることを踏まえ、アンケートなども実施している。アンケートの中では、若い世代の方で、将来に不安があるから結婚という選択をしないというご意見もあった。このような前提を踏まえ、若い世代に対して支援をする趣旨で記載をしたところ。一方で、多様化の時代、結婚しないという選択をあえてした方も当然いる。ご指摘いただいたことを踏まえて、配慮した表記として再度検討させていただきたい。

市の子育て支援に対する取組が、他市と比べてもよいというご意見をいただいた。また、有機農産物に関するご意見をいただいた。現状の取組で、石岡市として誇れるものに関して、記載の仕方も検討させていただきたい。

委員

子育てや教育をしっかりやられていると、皆さんの議論でお伺いした。その中、小中一貫という形でも検討進めているということで、再編計画も作っている。また、中高一貫も、茨城県の中でもかなり進んでいると思うが、子どもたちのレベルアップを図るため、小中一貫をうまく使いつつ、中高一貫という形でさらにレベルアップする形も考えられな

いか。

石岡市として小中だけで一貫を行うとしているのか、それともその先まで見込んでいるのか、考えがあれば教えていただきたい。

事務局

具体的な一貫校については、現在のところない。縦割り行政ということになるかもしれないが、市教育委員会で所管しているのは、小中になるので、その中での取り組みがどうしても中心になってしまう部分があるかもしれない。

会長

個人としては、中高一貫は都内など、競争があるから成り立っている部分もあると考える。

委員

11 ページの課題で、放課後児童クラブの入所率が増加傾向にあると記載されているが、10 ページのグラフだと、入所児童数もそんなに増えていない。定員が十分あるように見える。もしかしたら受入体制の課題を表そうとしているのではないか。確認をお願いします。

23 ページの課題、石岡Y・S・Cについては、現在会員数が伸び悩んでいるという記述がある。最近、私どものイベントに声をかけた段階では、実際1人しかいないと言われた。伸び悩みというよりも深刻ではないか。高校生のボランティア活動、小中高生は、これから地域を担っていく大切な存在なので、きちんと総合計画にも位置づけて、早急に支援をしていかないと、危機的な状況と考える。

委員

茨城県青少年育成協会に参加しているが、高校生会は全県的に会員数が減っていることが課題になっている。一方で水戸市、阿見町、東海村などは、会員数が増えてきている。取組として、高齢者に対するスマホ教室などを高校生会の方々がやっている事例もある。

ボランティアで関わっている人達を見ている中で、自分たちで何をやるか決めさせるのではなく、高校生でもできることを役割として与えることで、自己肯定感を高めることや、社会教育の場を提供できるのではないか。LINE講座やスマホ教室など、公民館と連携した取組ができるとよい。

- 委員 コミュニティスクールに関連して、24 ページの主要な取組では、「地域の教育力向上」とあるが、どういうことを言おうとしているのか教えていただきたい。コミュニティが非常に衰退している状況で、コミュニティスクールなどでも取組を進めていくと考える。
- 23 ページ課題では、「子どもの将来が生まれ育った家庭環境に左右されることなく」という記載があるが、様々な体験活動を行う中で、養育における非認知能力の向上が重要である。非認知能力という言葉がどこかに入っていた方がよいのではないかと。
- 会長 抽象的な表現があるので、多くの人が見た際にすんなり入ってくるような記載という注文も含めてのご意見である。
- 事務局 10 ページの児童クラブの入所者数の推移について、定員から見た場合に少ないというご意見があった。各小学校に児童クラブを設置しており、空き教室や個別教室、個別の施設を使って児童の保育をしている。特に八郷地区など児童数が少ない学校においては教室に余裕がある状況。一方で、府中小、南小、東小などでは、受入枠に対して、かなりの多くの入所希望があり、地域ごとの差がある。そのような部分を反映しきれないグラフとなっているので表記を検討したい。
- コミュニティスクール、地域の教育力向上について。コミュニティスクールは、地域の方々が学校運営に参加するものであり、それぞれの地域で、様々な認識をお持ちの方々が教育に関わることで、地域における教育力を向上するという趣旨である。表現が不足しているので、修正を検討したい。
- Y・S・Cについては、担当課と取組なども含めて調整させていただきたい。
- 委員 未婚率がネガティブイメージであるならば、結婚率にしたらいかがか。
- 先ほど、石岡市の保育環境でかなりお金使っているという見識を申し上げたが間違っているのか。あるいは、他自治体と比べて継続検討したことがないのか、ご回答いただきたい。
- 高校生の活動についてご意見があったが、先日「いば6」で、様々な自治体の高校生が地域をPRしているのを拝見した。その辺と高校生会がうまくリンクする方法ないかと考える。キーマンとして他の高校生を引っ張るようなアプローチをしてみたらよいのではないかと。
- 事務局 未婚率の表現について、検討させていただきたい。保育に関する経費については、現在まとまった資料がなくはっきりお答えできないが、他市との金額ベースでの比較に関しても、そのような数字は持ち合わせていない。実際には、成果指標の待機児童数に対して結果が出ている。石岡市では、待機児童はいない。一方で潜在的待機児童に関しては、令和5年度で40人ほどいる。こちらの解消が課題になっていることもあるため、引き続き取組を継続していきたい。

委員 3号認定の受皿は現在どういう状況なのか。不足しているのであれば、強化するように計画でも結びつけていただきたい。

事務局 出産した後、すぐに働きたいという保護者の需要があるっていうことは把握している。市内でも3号認定のお子さんを、お預かりする施設などもできている。ただ、保育の定員に関しては、面積要件を確保しているながらも、保育士が足りないということが、石岡市だけでなく、全国的に課題となっている。保育士を目指す学生含めて、保育士確保への取組が、方向性として必要である。

委員 先ほどの委員がおっしゃった保育関係の費用の数値はどこの数値か。

委員 令和5年度の予算。

委員 私の体感として、決算ベースだが、まず保育関係の費用は国の補助金も出るので、直接市が出さないものも、市の予算を通ると市のお金として支出したように見える部分がある。内訳を見極めなければいけない。また、感染症に関連する子育て世帯への臨時交付金など、そのくくりに入っているものもあるので、見かけより、たくさんあるように見えてしまうかもしれない。

具体的な事業として足りないことはないと思う。例えば、幼保の園舎建替えの補助金や、定員増に向けての取組なども、各認定こども園と協力しながら、努力はしている。保育関係の予算は特別多いかという、他市との比較はできないが、石岡市は決して足りなくはない。もっとほしいと言えきりがないが、体感としては、きちんとやっていると理解している。保育需要への取組について、0-2歳児の問題は以前からある。枠の拡充については取り組んでおり、今回、泉が丘保育園は新しい園舎できたが、民間事業者への支援は実際行われている。

委員 石岡市の大きな目標として、人口減少を止めることがある。第1回目に申し上げているが、日本全国の自治体が総力を挙げて取り組んでいるという認識。そのための手段の一つが保育に対する手厚い施策となり、市のPRポイントだと思う。国からの補助金は、おそらく、人口規模とある程度比例するものでしょうから、同じ規模の自治体、人口7万から8万ぐらいの人口の自治体に比べて、石岡市がどうなるかっていうことが、ストロングポイントとして打ち出せるのであれば、ぜひPRされたい。

やはりベンチマーク、他の自治体と比べてどうであるかを認識した上で、石岡市の良いところをさらに強化するために、次の施策を打っていくという流れになればよい。非常に高いハードルだと思うが、人口を増やすきっかけになると考える。

委員 出生率上げるための取組として、例えば、新婚世帯への家賃補助がある。今まで家賃だけだったものを広げて生活費にも回せるようになったことや、妊娠初期からの取組と

しては、妊婦健診も通常は上限が決まっているが、石岡市は無制限。生まれた方への保育関係の支援、新婚世帯や子育て世帯への支援、通勤通学関係支援。子育てから社会に出るまでの取組は、確かに細かくたくさんやっていると、私も感じる。いかんせんPRが下手で、このパッケージ持って東京へ営業に行けばみんな来てくれるのではないかとの印象もある。メニューはたくさんあるが、うまく結びつかない。ご指摘の通りだと思う。議会としても反省してもっとPRを後押ししたい。

委員 まるっと石岡なども活用するとよい。

委員 2 ページの現状これまでの取組で、「少子化の背景として、核家族化の他に家庭や地域における養育力の低下」と記載がある。養育力の低下については、メディアなどでも、用いられる言葉ではあるかもしれないが、市の政策の中で使うのはどうなのか感じる。

会長 要検討。よろしく願います。

委員 学校のトイレの洋式化とネットワーク整備について。心の相談員やっている中で、中学生から、お腹が痛いトイレが和式なので帰ると、言われたことがある。小学校は、統合再編があるので、設備投資が難しい部分もあると思うが、中学校のトイレの洋式化は早急にした方がよい。小中学生は感受性が豊かで、小さいことでも悩んでしまう。トイレが一つの逃げ口だったりするが、そのトイレが普段使っていない和式のものだとどうなのかとも思う。洋式化は重要な事項である。

ネットワーク化に関して、学校では最近整備されているが、公民館にも必要である。公民館のWi-Fiについては、つなげようとしても建物の構造上難しいと言われていた。生成AIなども出てきていて、今後Wi-Fiの環境があることが前提で、地域の居場所になる公民館には必要になってくる。

副会長 トイレは、各家庭でほとんど洋式。小中学生でも和式ではできないお子さんが多いと聞く。是非とも学校のトイレの洋式化を進めていただきたい。またネットワークも、高齢者のスマホ教室や、パソコン教室など、やはりWi-Fiの環境は必要なので、公共的な設備として充実していただきたい。市の方でもそういう方向で進めていただきたいし、議会としても後押ししていただきたい。

委員 公民館はなかなか不特定多数の人が入れない。その辺が変わってくればよいと思う。妊娠や出産に対する補助などがいろいろあるが、これらは、結婚した方に対する支援か。

委員 (新生活補助に関しては、子育て世帯および)新婚世帯となる。新卒の人が石岡市に住んでもらうよう、若い世代にも家賃補助を出したほうがいいのかと前から申

しているが、なかなか進まない。0 から作るのはすごく難しい。

今、特急券の補助や通学定期券の補助を行っている。転出を抑制するという効果が出てきており、学生までと働き始めまでの繋ぎ部分の支援ができており、また、新婚世帯からの支援があるので、その間をつなぐ支援が必要と考える。そこは議会でも協力しながら進めている。

事務局

新婚世帯や子育て世帯への支援は行っている。その部分を手厚くして、出生率の向上や人口減少の抑制というところに努めたいというところで、現在動いている。様々な世代への支援ということで、難しい部分もあるが、基本的には、私ども取り組みたいと考えているのは、人口減少対策、移住定住促進に向けた対策であり、その中でもできることを検討したい。

委員

学校のトイレの問題で意見があったが、私も同感である。洋式ではないので、学校でトイレをせず我慢して帰ってくるっていう子が多かった。そうすると学校が嫌になり、楽しくなくなってしまう子もいる。トイレに入ると、批判されることがあった。トイレの洋式化はお金がかかるが、ぜひやれたらよい。言い続けないと、市や議会も予算を組んでいただけない。別の会議に出席する時も、産科の先生を呼んでほしいと言っている。基金を1億円の積み立てているという話をきいて、言い続けることが大事であると感じた。今から石岡で育つ子どもたちのことなので、トイレの洋式化はぜひお願いしたい。公民館でも洋式化は必要である。中央公民館には、洋式トイレが一つしかない。高齢者の方もすごい列を作っていた時がある。高齢者にも優しい施設としていただきたい。

Y・S・C が1名と聞いて、びっくりした。イベントなどで高校生は協力してくれるので、話の持っていく方もあると感じた。

委員

トイレの洋式化は、議会でも議論しており、昨年の議会でも取り組んでいる。現状として、南小学校は建て替えしているので今年度完了。杉並小は6年度から7年度かけて、府中小は8年度から10年度にかけて100%目指すという目標値は、教育委員会から答弁をいただいている。最初に質問した時は、トータル目標50%であったが、そのまま目標値を今後75%まで上げるということだった。いつまでに上げていくのかという質問に対して、答弁をいただいている。八郷地区は統合再編の正式な方向性が出ていないので、設備投資が明確にできない。時間がかかっているが、今年度中に大きな方向性が出ると思うので、それに合わせた設備投資はすると考える。少しでも進むように、議会も後押ししたい。

会長

以上で本日の議事を終了とする。これ以降の進行は事務局にお願いする。

【次第4】 閉会

事務局

本日は長時間にわたりまして、慎重審議、また、貴重なご意見ございました誠にありがとうございました。また、明確な回答などできないところにつきましては、改めてお詫び申し上げます。以上をもちまして、令和5年度第3回教育審議会を終了いたします。次回の審議会は、11月16日を予定しております。詳細は改めてご連絡いたしますので、よろしくお願い申し上げます。

本日はありがとうございました。